

心齋橋駅

60分 コース

Osaka Metro まちさんぽ

御堂筋線・長堀鶴見緑地線 心齋橋駅

西日本随一の繁華街・心齋橋筋と道頓堀

橋を渡れば そわそわお茶屋に芝居小屋

江戸時代、日本一の商いのまち船場から心齋橋筋を歩いて行くと、西側には新町橋の向こうに天下の花街・新町があり、心齋橋の南にはお茶屋街の島之内、さらに道頓堀を渡ればずらりと芝居小屋が並んでいました。この道筋は装った船場の旦那衆や御嬢さん(商家の女将)で大いに賑わいました。

大正期の心齋橋

明治期の心齋橋



歌川広重 『浪花名所図会 順慶町夜見世之図』 国立国会図書館



- | スタート駅 | 約 60 分 | ゴール駅 |
|------------------|--------------|-----------|
| 1 御堂筋線 心齋橋駅 | 2 橋本宗吉絲漢堂跡碑 | 9 道頓堀5座 |
| 2 長堀鶴見緑地線 順慶町の夜店 | 3 井池筋 | 8 道頓堀・戎橋 |
| 3 心齋橋 | 4 大丸心齋橋店(本館) | 7 道頓堀・相合橋 |
| 4 三津寺 | 6 道頓堀5座 | 6 道頓堀5座 |
| 5 道頓堀・戎橋 | 5 道頓堀5座 | 5 道頓堀5座 |
| 6 道頓堀・相合橋 | 4 道頓堀5座 | 4 道頓堀5座 |
| 7 道頓堀・相合橋 | 3 道頓堀5座 | 3 道頓堀5座 |
| 8 道頓堀・相合橋 | 2 道頓堀5座 | 2 道頓堀5座 |
| 9 道頓堀5座 | 1 道頓堀5座 | 1 道頓堀5座 |

心齋橋筋は、江戸中期から「ぬり物屋、書物屋、古道具屋、経師や、琴三味線、かざりや、其外諸商売多し」(『難波丸網目』)と賑わっていた繁華街です。長堀川(長堀通)より北には出版元になる書店が並んでいました。上田秋成『雨月物語』、頼山陽『日本外史』などのベストセラーもここから出版されています。明治になって舶来の洋品が店先を飾って西日本を代表する商店街になりました。

心齋橋駅
60分
コース

Osaka Metro まちさんぽ

御堂筋線・長堀鶴見緑地線 心齋橋駅

西日本随一の繁華街・心齋橋筋と道頓堀

橋を渡ればそわそわお茶屋に芝居小屋

江戸時代、日本一の商いのまち船場から心齋橋筋を歩いて行くと、西側には新町橋の向こうに天下の花街・新町があり、心齋橋の南にはお茶屋街の島之内、さらに道頓堀を渡ればずらりと芝居小屋が並んでいました。この道筋は装った船場の旦那衆や御寮さん(商家の女将)で大いに賑わいました。

スタート駅

約 60 分

ゴール駅

御堂筋線・長堀鶴見緑地線心齋橋駅②号出口

千日前線・堺筋線日本橋駅

1 順慶町の夜店 (心齋橋筋商店街発祥の地)

江戸中期には、新町に向かう順慶町通に、堺筋から新町橋まで夜店が連なっていて大坂名物になっていました。その順慶町通と心齋橋筋が交差するところから賑わいが南へ、芝居小屋へ延びて、現在の心齋橋筋商店街へ発展していきました。



2 橋本宗吉^{しんくんとく} 糸漢堂^{いとくわんどう} 跡碑

橋本宗吉は江戸中期の人で、傘屋の貧しい紋描き職人でしたが、エレキテル(電気)の実験などで才能を発揮し、天文学者・^{はなま}間長涯の援助で江戸に出て大槻玄沢に師事して蘭語を学びました。帰坂後は医業を開き、また関西最初の蘭学塾・糸漢堂をここに開きました。弟子には中^{てんゆ}天游、その門下には緒方洪庵、その塾生には福沢諭吉と、大坂での学問の道を切り開いた先駆者です。



3 井池筋^{どがいけ}

心齋橋筋の一本東で、江戸時代は家具や小間物問屋が集まっていましたが、戦後は繊維問屋街として現金取引の卸小売で全国に名を馳せました。現在は都市再開発の流れを受けて商店が船場センタービルへ移転するなど、激しく変容しています。



4 心齋橋

元和8年(1622)に長堀川開削の中心を担った伏見の商人・岡田心齋が架橋しました。幅2間半(約4m)の木橋でしたが、明治6年(1873)にドイツ輸入の鉄橋にかわり、さらに明治42年(1909)には石橋になってガス灯が灯されました。昭和39年(1964)の長堀川埋め立てで歩道橋になり、いまは平面の横断歩道になっています。石橋の欄干やガス灯が復元されて面影を伝えています。鉄橋は鶴見緑地へ移設され緑地西橋に付設されています。



5 大丸心齋橋店(本館)

享保11年(1726)に「松屋呉服店」として開店しました。創業者・下村彦右衛門正啓は「先義後利」を家訓とし、貧民に食料や衣服を分け与えるなど慈善家としての評判も高く、幕末の大塩平八郎の乱でも「大丸は義商なり」と焼き討ちを免れました。本館はW.M.ヴォーリズが設計し、改装後も天井や柱にヴォーリズのデザインがそのまま継承されていて、百貨店建築の傑作として評価されています。



6 三津寺^{みつ}

天平16年(744)に聖武天皇の勅命により行基菩薩が開基したと伝わっています。このあたりは『日本書紀』や『万葉集』に「御津」と書かれた海岸でした。令和5年(2023)の秋に全面改築を経て本堂がホテルと一体となる変貌を遂げました(12月4日拝観再開)。



7 道頓堀・戎橋

道頓堀は、慶長17年(1612)に安井(成安)道頓・安井道トらが私財を投じて東西横堀川をつないで開削した堀川です。その功績により大坂城主・松平忠明が道頓堀と名づけたとされています。



戎橋は今宮戎神社の参道に道頓堀の開削と同時に架橋されました。道頓・道トの紀功碑が日本橋北詰にあります。

8 太左衛門橋^{たざえもん}・相合橋^{あいあう} ・とんぼりリバーウォーク

太左衛門橋は東南角に芝居小屋を開所した大坂太左衛門の名前が由来です。相合橋は川北の花街・宗右衛門町に遊ぶ男女にちなんで名前が生じたと考えられますが、縁切橋ともいわれて遊里の人々は渡橋を嫌ったそうです。このあたり一帯の道頓堀川沿岸に約2kmの遊歩道・とんぼりリバーウォークが設置され、新しい大阪名所になっています。



9 道頓堀5座

道頓堀の通りは、寛永3年(1626)に幕府より芝居および遊所の設置が許可されてから関西を代表する繁華街として発展しました。竹本座(のち浪花座)、中座、角座、朝日座、弁天座は檜をあげた幕府公認の芝居小屋で、道頓堀5座と呼ばれ、通りは檜町と称されました。歌舞伎、人形浄瑠璃、からくり芝居などが演じられ、元禄12年(1699)には、通りに「いろは47軒」の水茶屋が許可されて「くだおれ」の食文化も生まれました。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2023年9月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの(ガイド付きまち歩き)については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行